

千秋公園内の桜の植生調査・結果の集計とその判定について

市では「千秋公園さくらの更新計画（仮称）」の策定を目指し、平成 20 年 4 月から、千秋公園内の桜の植生調査を行ってまいりました。

その第一次報告として、これまでの調査結果の概要をお知らせします。

なお、千秋公園の桜の植生調査につきましては、この結果をもとに、引き続き公園内の場所毎の植生基盤（土壌診断）調査等を進めることとしています。

1. 千秋公園・桜の植生調査の概要

調査対象：園内の桜の全数 771 本

（ソメイヨシノ 684 本 ヤマザクラ 30 本 八重桜 25 本 フゲンゾウ 14 本
その他 18 本）

調査時期：開花の状況（4/19～4/28）

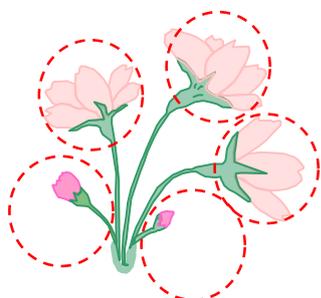
花芽の密度・散り際の状態

及び：葉の繁茂状況（6/17～7/25）

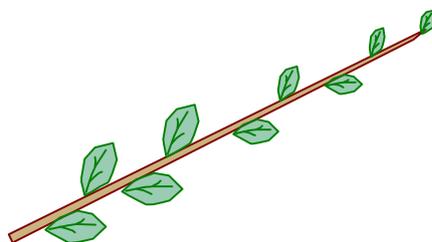
葉の状態・枝の伸び方

調査項目：落葉の状況（11/17～11/28）

落葉の状態・幹周・枝張り



1つの花芽から、いくつ花がでているか



葉の大きさや量は十分か



花芽の数



葉の色や大きさ



根廻りの植生基盤



コケの付着



幹の空洞化

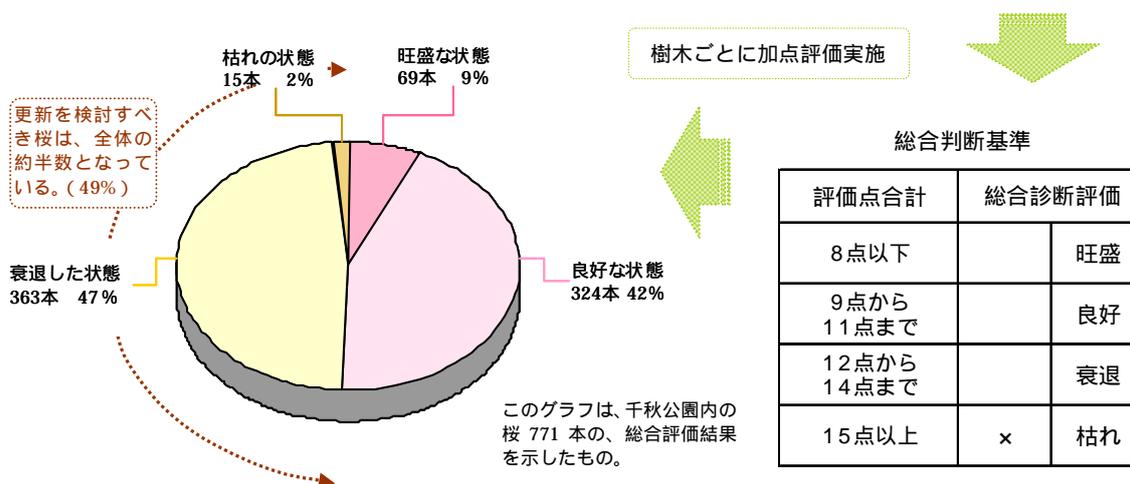


キノコの付着

2. 樹勢の診断評価

診断項目として、花芽の数や葉・小枝の数、葉の大きさや木質部の腐朽の状況、キノコや菌類の着生状況に着目し、加点方式により総合評価を行った。

評価項目 \ 評価点	1点	2点	3点	4点
花芽の数	6個以上	5個～4個	3個～2個	1個未満
葉・小枝の数	多い	やや少ない	少ない	乏しい
葉の大きさ	大きい・普通	小さい葉が少しある	上部の葉が小さい	全体的に葉が小さい
腐朽の状況	枝に見られる程度	幹・根株の何れかに見られる	幹と枝、幹と根株の双方に見られる	樹木全体に見られる
キノコ・菌類の着生	ほとんどない	ごく一部に見られる	多少見られる	全体的に見られる



旺盛な状態



良好な状態



衰退した状態



3. エリアごとの樹勢評価

千秋公園内のエリアごとの桜の樹勢状況を評価するため、日照条件や地勢要件、園地としての利用形態がほぼ等しい 12 エリアに分割し、樹木個々の総合診断結果の傾向を取りまとめた。



本調査では、園内の桜の約半数は更新を検討すべき状況に至っていることや、日照に恵まれ、人が踏み込まない斜面地では、比較的良好な植生が保たれていることなどが判明した。本調査に基づき、今後実施する土壌診断では、このような樹木の症状の科学的検証を踏まえ、今後の処方策なども検討していく予定である。